

このコーナーでは毎月いろいろな統計の話題を紹介していますが、今回は、各種統計資料を保管している、県庁の統計資料室についてご案内します。

県庁15階の一室にある統計資料室の、部屋いっぱいにある可動式書棚の真ん中あたりを動かして、奥の方に行くと、何やら古い冊子が見つかりました。背表紙には「国勢調査報告書」と書いてあります。どうも大正9年（1920年）に実施された最初の国勢調査の報告書の様です。

さっそく、ページを開いてみましょう。当時の山口県の人口は104万人。「市町村要覧表」の最初に載っている市が下関市で、その人口は7万2千人。（現在の行政区画とは異なります。）

次の市は？…ありません。

当時の市は下関市だけだったようです。

下関市の次に載っているのが大島郡です。人口はなんと5万6千人。離島でありながら、下関市とあまり変わりなかったんですね。（今の周防大島町に柳井市の平郡が入っています。）

ところで大島郡といえば、人口が増え続ける中、働き口を求めて、多くの人ハワイへ移住していたことはよく知られています。そういった歴史からも、当時の大島郡の人口には納得です。

このように、一見ただの数字の羅列にしか見えない統計資料も、その背景を知ることにより身近なものとなります。

このような古い資料も、統計資料室の書棚にはたくさんあります。一般の方も閲覧できますので、利用される際には、県庁統計分析課（電話083・933・2640）までご連絡ください。

